

〔紀伊續風土記 物産六下〕御綱柏古事記 丹生明神告門三津柏 丹氣宮儀式帳 御角柏 類聚 國史 三

引筑紫風土記御津柏寂阿法師百首歌 長カシハ 拾玉集 三角長柏 釋日本紀 古事記傳に 御

綱三津野御角みな同じことなり

右は凡て都怒都能都那は通はしいへる例なり此柏は葉三岐にて先尖りたれば三角の意なるべしといへり按ずるに此木古書には形狀をいはず中古より今に至りて諸説紛々としての當の説なし今牟婁郡潮崎莊潮御崎には御綱柏といふ者あり高さ丈許其葉大さ五寸許五尖にして中尖大にして左右の四尖は小なり周邊鋸齒ありて厚く莖葉共に澀毛あり四五月の間五瓣小白花聚り開き後積桐の如き實を結ぶ忠肅が柏傳餘考に原御史維庸卿の説を載せて圖するもの是なり然れども此葉十月に至り凋落す眞物にあらず今和泉紀伊伊勢志摩其餘南方の海邊に産する一種の樹あり俗に三手柏といふもの、屬にして樹高大になりて葉至りて厚く硬く滑澤あり葉面深綠色にして背淡し大さ三四寸許形三手柏の如く缺刻深からず圓くして微に三尖あり故に圓三手といふ夏月の頃小白花聚まり開き秋に至て黒實を結ぶ此葉四時凋落せず葉心凹みやすく物に盛によしこれ眞の三角柏なるべし潮御崎にも此木處々にあり土人は是を三角柏と呼もしてミヅキ名義詳といふこれは傳聞く元祿の頃京師の人此所に來り初めてこれを見出し妄りに三角柏に充てしより土人却て眞の三角柏をまらざるなり辨別すべし

櫟

〔新撰字鏡〕木正音來的 反木名 借舒灼反 鄙櫟也又餘灼反地名一比乃木

〔倭名類聚抄十七〕櫟子 崔禹錫食經云櫟子上音歷和 名以知此相似而大於椎子者也

〔箋注倭名類聚抄九〕本草和名櫪子在椎子條別無和名新撰字鏡萬葉集同訓用明紀赤檮此云

伊知昆古事記景行段亦用赤檮字略中 本草和名椎子條云又有櫪子相似而大於椎出崔禹按櫪